

2020年度

S 2

## 小論文

2月25日(火)

情報学部 (情報社会学科)

9:30~11:30

【前期日程】

### 注意事項

#### 試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(2枚)に受験番号を記入しなさい。

#### 試験開始後

- 3 この問題冊子は、7ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

<ul style="list-style-type: none"><li>・書き出し・改行後は、一マスあけない。</li><li>・句読点なども1字と数える。</li><li>・英数字は一マスに2字入れてよい。</li></ul>
--
- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

#### 試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

1

近年、音楽の聴取環境は大きく変化してきている。

音楽の市場動向を見るにあたってはまず、各分野の利用者から音楽著作権使用料を徴収している日本音楽著作権協会(JASRAC)の徴収額実績を確かめる必要がある。図1はJASRACによる徴収額全体の推移で、演奏、録音、複合の内訳も示してある。図2は、2018年度の分野別の内訳である。

図3は、音楽用CD、DVDソフトといった音楽パッケージ・メディアと、ネット配信とを合わせた市場規模の推移を日本レコード協会が出荷ベースでまとめたものである。一方、会場に足を運んで楽しむライブ・エンタテインメント(コンサート)のチケット売上の推移を図4に示した。

また、図5・図6は、日本レコード協会が実施した「音楽メディアユーザー実態調査」の結果である。図5では、音楽を楽しむためにユーザーが利用した商品やサービスをまとめている。図6では、有料・無料・無関心という形でユーザーの志向を分類している。

日本の音楽市場はどのように変化してきていると考えられるのか。図1～図6から読み取り、600字以内でまとめなさい。

(配点 40%)

(億円)

## (著作権許諾手続中)

(年度)

■ 総額    ■ 演奏    △ 録音    ● 複合

図1 日本音楽著作権協会(JASRAC)の音楽著作権使用料徴収額の推移

(注) 「複合」とは通信カラオケとインタラクティブ配信の合計。「演奏」には放送使用を含む。

(出典) 日本音楽著作権協会「事業概要(各年度版)」

## (著作権許諾手続中)

図2 JASRACによる音楽著作権使用料徴収額の内訳(2018年度)

(注) 「特定目的複製」は広告・ゲームでの使用。

(出典) 日本音楽著作権協会「事業概要(2019年度版)」

(億円)

## (著作権許諾手続中)

(年)

■オーディオレコード ■音楽ビデオ □音楽配信

図3 日本の音楽コンテンツ市場規模の推移

(注) 「オーディオレコード」はCD・レコードなどの総生産額。「音楽配信」はダウンロード型・ストリーミング型の両方を含む販売実績である。

(出典) 日本レコード協会「生産実績・音楽配信売上実績 合計実績 2019年版」

(億円)

## (著作権許諾手続中)

(年)

図4 音楽ライブコンサートの市場規模(チケット売上)

(注) 一般に対して開催情報の告知を行い、チケットを販売したポップス、ロック、歌謡曲・演歌、クラシック、ジャズなどのコンサートを対象にチケット売上を集計したもの。

(出典) ぴあ『ライブ・エンタテインメント白書 2019 レポート編』

# (著作権許諾手続中)

(%)

図5 主な音楽聴取手段

(注) 2018年9月に全国12~69歳の男女を対象にインターネットで行ったアンケート調査の結果。有効回答数は2,382。

(出典) 日本レコード協会「2018年度音楽メディアユーザー実態調査」

(%)

# (著作権許諾手続中)

(年)

■ 有料聴取層    ▣ 無料聴取層    □ 無関心層

図6 音楽との関わり方

(注) 「有料聴取層」は調査時点の直前の半年間に、音楽を聴くために音楽商品を購入したり、お金を使ったりしたことがある人たち。「無料聴取層」は音楽のためにお金を使っていない人たち。「無関心層」は特に自分で音楽を聴こうとしていない人たち。調査データは図5に同じ。

(出典) 日本レコード協会「2018年度音楽メディアユーザー実態調査」

2

次の文章は『流言のメディア史』(佐藤卓己著, 岩波新書, 2019年)の一部です。よく読んであとの問いに答えなさい。なお, 問題作成のために文章を一部改変しました。

(配点 60%)

(著作権許諾手続中)

(著作権許諾手続中)

## (著作権許諾手続中)

(注1) デフォルト 当然のこと、所与の前提。

(注2) クレンジング 浄化, 削除。

問 1 下線部①について、筆者がそのように考える理由を、本文を要約しながら、200字以内で説明しなさい。

問 2 下線部②に関連して、デマやフェイクニュースなどの「メディア流言」があふれる中、信頼できるメディアを育てていくためには、どのような方策が有効と考えられるか、あなたの考えを400字以内で述べなさい。